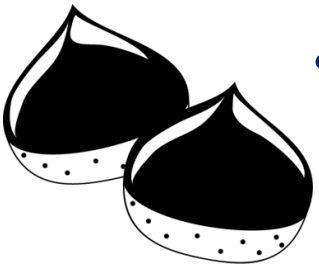
NPO 法人（特定非営利活動法人）
とちのみ支援会



とちのみ

NPO 法人　とちのみ支援会会報
第 4 号　平成 26 年 6 月 15 日発行

会長挨拶

会報 4 号発行に当たり

会長　小寺一夫



昨年 10 月 17，18 日の両日、南砺市福野におきまして「介護保険推進全国サミット in　なんと」が開催されました。北海道から沖縄に至るまで全国各地から医師、大学教授、看護師、保健師等、多数の方々が参加されました。私は第一分科会に参加しました。テーマは「地域力の源～地域で老いを支える人づくり」でした。

近年は少子高齢化で全国どこの市町村でも市街地の空洞化が進み、町の中を歩いている人がいません。車だけが走っています。最近は自転車乗っている人さえ少なくなっています。たまに乗っている人を見たら、中国人です。もっと自転車に乗りましょう。自転車の籠に入るだけの買い物をすればいいのです。

私は朝、散歩をしています。散歩の魅力は知らない人とでも「おはようございます」と言えることです。小学生は言葉を返してくれますが、高校生はなかなか返してくれません。先日、何年か振りに電車に乗りました。私は図書館で借りた本を読んでいましたが、周りはスマートフォンをしている人ばかりでした。高校生たちは「ヤバい」という言葉をよく使っています。あまり感心できる言葉ではありません。近所に一人暮らしのお年寄りがおられたら、進んで声を掛けましょう。

随　　想

老いてもなお大志を抱き

副会長　中村浩一



平成 26 年 2 月 22 日(土)、「NPO 法人はぁとぴあ 21」主催の青少年健全育成春季講演会に林國夫副会長、田川春朗顧問と共に参加しました。テーマは「未来への扉を開こう」でした。講師は NPO 法人教育研究所理事長の牟田武生先生でした。内容は高度で現代社会の身近な問題を率直に分かり易く、300 名以上の聴講者は真剣に聞き入っていました。

現代の少子化、地域社会の教育力の低下、学歴社会、幼児早期教育、効率化優先の社会、家族論理「生かす」の原理、弱者と共に生きる、問われる父性と母性等、これらの説明を詳細にされました。カウンセリングをする中でも、相当な勉強をしなければならないものだと、不登校、引きこもり、ニート等は大変難しい奥深い問題があるものだと､私のような高齢者にはとてもカウンセリング等はできるものではないと思います。本会最高年齢ですが、まだこれから 10 年間は地域社会のため、より良い社会実現のために大志を抱き精一杯頑張りますので宜しくご指導をお願いいたします。

活動報告

NPO 実務講座に参加して

顧問　田川春朗



本法人も創立以来 15 年を迎え、いよいよ熟年の域に達したのではないかと思います。第 2 次小寺・廣田体制に入り、会員各位の一層の団結と協力、そして、役員諸侯の斬新なアイデア、工夫とミッションに沿った企画の実現を期待しております。

平成 26 年 3 月 8 日(土)、午後 2 時から 5 時まで、富山県総合福祉会館にて、講師に NPO 法人コミュニティビジネスサポートセンター代表理事・永沢映先生をお迎えして、「NPO 実務講座」が開催されました。テーマは「NPO 自立のポイントを事例から学ぶ」で、本会より高田達雄さんと私、田川が出席致しました。

全国で NPO 法人は約 5 万団体前後あり、富山県内には 350 団体位あるとのことであります。正確な数字ではないのですが、新規団体が設立認証されても、すぐに行き詰って解散する団体が、何百・何千とあるそうです。私ども「とちのみ支援会」に対しては、「15 年間も継続できていることは本当に立派なものですね」と永沢先生も高く評価して下さいました。その上私どもの団体は純粋なボランティア活動のみをしている会でもあります。

ボランティアの定義は、自発的に行動すること、社会貢献即ち公益性のある事業・企画であること、お金を貰わないこと（活動における材料費等は別）であります。私どもの会員は皆、この定義を理解していますが、これからは何とかして会費以外で収益事業活動を定款に基づいてやれないかと、企画部会で研究していく必要があると思っております。永沢先生も様々な事例を挙げてご説明しておられましたが、私どもの会に当てはまる事例がなかったように思います。故に会員相互に知恵を出し合い、企画部長を中心に、総務部長をまとめ役として、前年度のコピーの企画事業ではなく、ニューアイディアを結集して魅力あるものに前進・発展させていくようにお互いに努力して参りましょう。本来的に NPO とは地道な活動を行って社会貢献をするもので、派手派手しいものではないことも前もって認識して、今後とも一致団結・協力して参りましょう。

雑　　感

とちのみ支援会に入会して

会員　増田太美男



とちのみ支援会が設立されました頃からこの NPO 法人のことは知っていたように思います。然しながら、ボランティアは建前で、実は会員の親睦団体のようなものかと何となく思っていました。

このほど入会させて頂きまして、間違っていたことに気が付き、自分を恥じました。会員の方々は、みんな真摯な思いで活動されていると感じました。考えてみると、しっかりと法律に基づいて認証される団体であり、甘い気持ちで設立・活動できる訳がないということです。

入会した直後で、活動内容も全くわかりませんが、唯、メンバーの前向きな姿勢と各々相当に高度なスキルの持ち主の集団だという印象を受けました。私はこれといった特技は何もありません。できることは雑用くらいしかないだろうと思っておりますので、ご指導のほど宜しくお願いしたいと思っています。

主　　張

新年度へのご提案

顧問　田川春朗



新年度も4月1日より始動し、いよいよ本会設立以来15年目に相成りました。まさに一意専心、虚心坦懐に各役職に対し使命感と自覚心そして責任感を持ってお互いに努力し切磋琢磨して第2次小寺・廣田体制に献身的に協力して、年々進化し進歩・発展・向上させていくことが大切であります。只、単に魅力があるとかないとか言う前に、それは各役員が斬新な発想力を持って、月例会に於いて具体的に提言すべきだと思います。

私も12年間会長を務めさせて頂き、色々な健康講座、青少年健全育成、家庭内暴力や不登校児のカウンセリング等、柏崎への支援(中越沖地震)、東日本大地震等への支援等、これらはまさに役員・会員の皆様方の御協力がないと遂行できない事業であります。然し乍らこの様な事業を企画立案して交渉し実行する迄には、大変な労作が必要であります。魅力有る様にするには、只、参加するだけでなく、お互いに提言し努力して苦労して初めて具現化すれば自分の意見が実を結んだと達成感が湧いてきて魅力になるのではないでしょうか？只、前年度の事業を丸写しのコピーで、何らの変化もなければ魅力的にはならない訳であります。

会員の皆様方は事業企画を立案する場合、先ず定款に基づき予算は事業に基づき立案しなければならない訳でありまして、定款をしっかりと読んで下さって、年次計画を立てて頂きたいと思います。お互いに地域社会の為、自らを捨てて公徳心を持って活動に精励して参りましょう。

報　　告

第14回通常総会開催

平成26年4月24日(日)午後7時より本会事務所に於いて第14回通常総会が開催されました。参加会員は委任状出席を含めて12人で、まず、小寺一夫会長の挨拶後、司会者の廣田秀徳事務局長が議長の選任を議場に諮ったところ満場一致をもって田川春朗顧問が議長に選任され、続いて議長より挨拶の後、報告と承認に入りました。議長は、平成25年度事業報告を執行部に求めたところ、廣田秀徳事務局長が報告をし、続いて平成25年度会計報告を理事に求めたところ、服部良三財務部長が報告をし、続いて平成25年度監査報告を監事に求めたところ、長澤信治監事が事業・会計共に正確で妥当であることを報告し、満場異議なく可決承認されました。また議長は、総会から選出の理事7名の任期満了につき改選を付議したところ、高田達雄会員から理事会に一任したい旨の動議があり、満場これに賛成したので、理事会の協議により、小寺一夫会長は林國夫理事の退任、渡辺一郎会員の理事就任を行いたい旨を報告し、満場異議なく可決承認しました。その後、議長は、執行部に提案の定款の変更案を議場に諮ったところ、高田達雄会員より理由を示してほしいとの意向が示され、廣田秀徳事務局長が定款第3条・第4条・第5条を変更したい旨の提案があり、その変更内容及び理由について説明後、審議の結果出席した会員に4分の3以上(11名)の賛成で可決されました。議長は、平成26年度の事業計画案を議場に諮ったところ、会員からは具体的な事業計画案が提出されなかったので、執行部案ということで理事廣田秀徳氏が提案し、満場一致をもって承認されました。また議長は、平成26年度の事業予算案を議場に諮ったところ、会員からは具体的な事業計画案が提出されなかったので、執行部案ということで中村浩一新財務部長が提案し、満場一致をもって承認しました。議長が退場して事務局からのお知らせ後、服部良三新副会長が閉会を宣し午後7時10分に閉会しました。

雑　　感

人間の死後

理事　渡辺一郎



新聞広告の新刊案内を見てしばらく前に、東京大学医学部教授 矢作直樹著『人は死なない』を読んだ。死後の世界や霊魂の概念は自然科学の次元を超えているので科学的証明云々にこだわっては理解できないようだ。

そういえば自分が死ぬ日を正確に、一日も間違えることなく予言した人 がいる。ストックホルムで生まれ、１７７２年に亡くなったスゥェーデンボルグだ。死ぬ一年も前から自分がいつ死ぬかを知ることができ、友人にもそれを知らせ、その日に亡くなった。彼は一流の科学者であるが、死後の世界（霊界）を探訪する術を身につけ、様々の霊と会って対話をし、それを記述した。その原著は大英博物館に保存されている。

スゥーデンボルグなど霊界に通じている人によると、生前の世界（地上界）と霊界は密接な関係があるという。人は死ぬと霊界へ行き、すでに霊界にいる大勢の霊人の前で、生前の自分の行為の中で、最も恥ずかしく思っている行いが天空にパノラマのように映像となって、そのあまりの恥ずかしさに顔を覆うという。次の瞬間、生前の自分の行為の中で、最も誇りに思っている行為が、やはり天空に大写しにされ、その次には二番目、三番目の両方の行為が順々に映し出され、その人が生前どのような地位や立場にあったかと関係なく、その人の真の姿が露わになるようだ。

科学的思考に慣れている現代人の多くは、霊界の存在を否定しないまでも 重要な問題ではないと考えているのではなかろうか。しかし、霊界が存在し、そこは、地上界でどう行動したかに大きく依存するのであれば、真剣に考えざるを得なくなる。

人生において霊界など存在しないとして、好き勝手に生きて死後霊界が存在した場合、「つらく恥ずかしい思いを持って永遠に生きる」ということにならないとも限らない。反対に、霊界が存在するとの前提で人のために生きていると、霊界では相応の待遇を受けるらしい。霊界を認めて生活した方が賢明な生き方ということになる。

最近は、医学界や心理学界で、霊界についてかなり研究されている。その成果が整理され、生涯教育や学校教育の場でも使われれば、個人の人権ばかり振りかざす生き方を反省する良き機会となるのではと考えています。。。

ニュース

施設での手技療法ボランティア

3 月 21 日（金・祝日）午後 2 時より、小規模多機能型居宅介護施設「ケアタウンおやべ」（長澤信治社長）において、手技療法のボランティアを行いました。当法人から 7 人の鍼灸師、マッサージ師、手技療法士が参加し、施設の利用者さん・職員さん合わせて約 15 人程に手技療法ボランティアをしました。その後、会員赤尾宏樹さんの懐かしの唄や五箇山郷想歌、「皆の衆」「奥飛騨慕情」「赤とんぼ」などを熱唱しました。受益者の皆さんからは「体が軽くなった」「楽になった」「心が和んだ」などの声が聞こえ、喜んでもらいました。



寄　　稿

物忘れと認知症について

監事　長澤信治



日頃より、NPO 法人とちのみ支援会の活動につきましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
最近の私は物忘れが多くなっていると感じています。
自分に都合が良いことや好きなことは、しっかりと覚えているのですが・・・。
人間は皆、年齢を重ねるとどうしても多少の物忘れはでてきます。
この物忘れは、加齢に伴う生理的な変化によるものであり、単なる物忘れはいわゆる「認知症」とは異なります。
認知症は物を忘れる病気と思われがちですが、物忘れは人の名前が出てこなくなるなど、加齢によって記憶が衰えることをいいます。
記憶は残っているため、一時的に思い出せなくても別の機会に記憶がよみがえることがあります。
一方、認知症は記憶そのものを失っているので、昔会った人の写真を見せても知らない人としか認識できません。
物忘れは、加齢に伴う生理的な現象。「歳だから仕方ない」なんて理由をつけて、何の対策も行わないのも考えものです。
特に私たちの生活は快適で便利になりすぎて頭を使わずに済む一方で、過剰な効率化や情報過多による、過度のストレス。肉体だけでなく脳への負担も増える一方です。
脳は筋肉と同じで、使わなければ衰えます。逆に使い過ぎても上手く働かなくなります。

文献によると脳の働きを低下させる原因には

1. 快適・便利すぎる生活
   脳の神経細胞は 20 歳を過ぎると減少してくるために、神経細胞の情報伝達のスピードも落ちてきます。
2. 不規則な生活習慣
   特に睡眠は、体の疲労回復だけでなく、脳に入った情報を整理し、記憶として定着させるための大切な時間です。睡眠不足は記憶力の低下につながります。
3. 活性酸素によるダメージ
   脳は他の臓器と比べ、大量の酸素を必要とし、紫外線や、喫煙・排気ガス・ストレスなどによって活性酸素が発生しやすく、そのダメージを受けやすい器官です。
4. ストレスによるダメージ
   ストレスは活性酸素を発生させるばかりでなく、脳内の情報伝達を行う神経伝達物質（アドレナリン、ノルアドレナリン、セロトニンなど）の働きにも深く関わっています。
   神経伝達物質の働きが低下すれば、精神的に不安定になり、集中力も散漫に。
   脳を活性化させ、老化予防すると同時に、脳をいたわり、リフレッシュさせ、
   いつまでも健康な脳をキープすることがとても大切です。

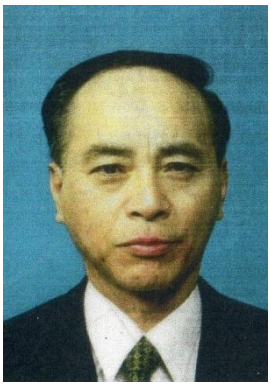


   ただし、認知症は早期発見が大切です。
   気になられる症状がある場合には、早めに医療機関へご相談ください。

活動報告

ボランティア・NPO ミーティングに参加して

理事　久津呂武由



ボランティア・NPO ミーティングが平成 26 年 2 月 6 日に依頼があり高岡総合庁舎会議室に於いて、各ボランティア番隊の代表が出席して、事業報告や意見交換がありました。オブザーバーとして富山県から堀田氏、富山県社会福祉協議会ボランティアセンターの小倉氏、富山県ボランティア綜合支援センターの専務理事さん、事務局長さんが出席されました。開会後、直ちに各団体の出席者が順次、団体の活動状況や会の運営状況等を報告しました。私もとちのみ支援会の活動状況等をいろいろと報告しました。次年度になり総会で議決された活動計画に基づき、しっかりと、田川顧問、小寺会長、また、副会長、総務、主要執行部を中心に話し合いをし、各自の責任のある職務を遂行していきたいと思います。

第 4 回青少年健全育成講座

理事　久津呂武由

平成 26 年 2 月 23 日に第 4 回青少年健全育成講座を南砺市福光公民館で、講師として岩城俊平先生をお迎えして講演して頂きました。私は司会をさせて頂きました。岩城先生には、大変素晴らしく分かり易く面白く、そして楽しく講演して頂きました。講演を聞きに来られた参加者(保護者)から、子供たちに対しての悩みのことや対処の仕方の質問がいろいろとあり、岩城先生は質問に対して分かり易くお答えになられました。



会員の皆様の協力により無事に青少年健全育成講座を終了しました。参加者の皆様も大変喜んでおられました。次回の第 5 回も今回の良かったことまたは改善するところはみんなで確認して、よき時期に開催いたしたいものだと思います。

育てシニアサポート事業の調査報告書

理事　久津呂武由



先般平成 25 年 11 月から平成 26 年 4 月までの子育てシニアサポート事業の活動状況の調査報告書が参りましたので第 4 回青少年健全育成講座を開催したことを報告しました。また今後シニアサポーターの研修会の開催があるときに本会からまた何人か参加して市町村・保育所・幼稚園・子育て支援センターの施設への子育て支援活動に協力していくことも報告しましたので、その節には会員各位にもご尽力を頂戴することもあると思います。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。本会としてもっと事業の企画を増やし、本会がますます発展していくよう、皆様と共に協力し合って頑張って行きましょう。

雑　　感

NPO 法人の現状と課題、そして自立への過程

・・・・この１年を顧みて・・・



会員　高田達雄

平成 10 年 12 月、特定非営利活動促進法が施工され、市民活動、団体の現状課題に関する調査報告書では、保健、医療福祉が 44.8%、国際協力 10%、社会教育 7.5%、子供の健全教育 6.7%、災害救援 1.3%、街つくり 5.4%でした。東京都の調査によると、NPO 法人が発足してから、現在抱えている課題・問題は、活動資金の不足が 77.8%、メンバー確保が 27.6%、行政との連携 26.4%でした。このデーターは 10 年以上前のものですが、変動、変化は大差ないと考えられます。当然のことながら、災害時にはパーセンテージは上がります。NPO 資金の種類は ①会費、②寄附、③助成、④補助、⑤収益活動・事業収入などで、多くの NPO は会費で成り立ち、会費からの継続的納入で運営され、他の資金と違い安定した収入源の一つで使い方は自由であります。しかしながら、継続的に活動達成・推進を図るには物品の販売やサービスや労力などで得た代価収入が必要で、これは本当の意味で独立した NPO を目指し存続のための重要な活動資金源になるでしょう。

先達て、3 月 8 日サンシップとやまで、NPO 法人コミュニティビジネスサポートセンターの代表理事・永沢映先生による「NPO 実務講座、自立のポイント」を拝聴してきましたが、多くの NPO が活動資金源の不足を補うには、資金、人材、存在意義、使命が不可欠であり、非営利団体こそ、利益を確保していくべきで、利益を上げることで、目的としている活動、支援、課題の解決に対して活用できる資金が増え、より団体の使命の達成に繋がります。その中でいくつもの事例がありましたが、各会、各団体が現況を踏まえ、試行錯誤していくことが必要でしょう。私自身もこれといった知識や打開策はありませんが、この 1 年を顧みて、実情を知りましたので、今後は私にできるサポート・協力・支援をして参りたく思います。

雑　　感

子どもを囲む環境



相談役　林國夫

私は本会では第二の長寿であります。先般(平成 26 年 2 月 23 日)本会主催の青少年健全育成講座を開催しましたところ、たくさんの聴講者が来館され、主催者の一人として大変嬉しく思った次第です。「子どもと楽しく付き合うには」とのテーマで、元富山市立新庄中学校校長を務められ、現在国立立山青少年自然の家エコティーチャーとして、自然の中での幼児から生徒までの人間教育に当たっておられる岩城俊平先生であります。振り返りますと昔は余りいじめや不登校、引きこもり等がなかったように思います。学校から帰るとすぐに近くのお寺やお宮さんの境内で夜遅くまで遊んでいたものです。今はどうでしょうか。少子化が進み、学校から帰るとすぐに塾通いです。近所で子どもの声がほとんど聞こえないような実態です。それ故、友達と自然に溶け込んだ遊びが分からず、頭でっかちで学歴偏重社会になった一つの所以ではないでしょうか？　ちなみに私は学歴がありませんが、家族や人間関係を大切にして一代で大きな身代を築きました。これも幼い頃からお寺やお宮さんの境内で自然に学び、人と人との付き合い方を学んだからではないでしょうか？講演を拝聴して、損得抜きで地域社会に物心共の貢献をして参りたいと決意した次第です。

随　　想

結婚の意義

総務部長　廣田秀徳



6月は結婚のシーズンです。ジューンブライドは幸せになれるという西洋の言い伝えから来たものですが、日本ではムシムシした梅雨の時期です。この梅雨のように近年結婚するカップル数は1970年に100万組を突破しましたが、その後は減少に至り現在は70万組前後でジュクジュクと推移しています。日本人の非婚化はどんどん進み、ある推計によると、2030年には男性の3人に1人が、女性の4人に1人が生涯独身になるとも言っています。非婚化は様々な社会問題を引き起こします。中でも人口減少の直接要因になります。昨年1年間に生まれた新生児の数は約103万名、戦後最も少なくなっています。ある推計によると、2060年には日本の人口は8700万人を下回るとも言われています。

戦後、結婚や出産は個人の問題であり、政府や地方公共団体が口を挟むものではないといわれてきました。しかし近年、公的機関やNPO法人による縁結び・結婚・子育て支援に力が注がれるようになりました。人権派活動家が主張する「個人の自由」として放置するにはあまりにも大きな問題となってしまったからです。このように婚姻数を増加させる上で、結婚しやすい環境を整えることは必要なことです。若年層の就職支援、給料の引き上げ、新規婚姻者への一時金支給、住宅の優遇政策、乳幼児の医療費免除、児童手当などはある程度実施されています。しかし、もっと大切なことは結婚の意義、結婚の価値を正しく認識して、結婚・家庭・子育てに希望を感じるようにすることだと思います。このことを、国を始め、地方公共団体、学校、家庭で怠ってきたので、非婚者が増加したともいえるのです。

「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。」（日本国憲法第24条）とあるように、結婚が男女の愛を基本として成立していることは当然ですが、個人や二人の幸福と共に、社会の発展に密接に関係しているところに結婚の意義があります。結婚によって新しい生命が誕生することによって、家庭は個人と社会、過去と未来を連結する橋渡しとなります。結婚や出産を通して、親戚や地域社会との関わり合いがそれまでとは比べようがないくらい大きくなっていくことを多くの人が実感していることでしょう。結婚の社会的意義を理解することは、結婚の喜びを更に高次元に高めることでしょう。現代に生きる私たちの家庭は次世代にこの結婚の意義と価値を正しく伝える重要な責務を負っているのです。本年度より本会もいよいよ婚活事業に足を踏み入れます。その重要な使命を再認識して国家の根幹となるこの問題の解決に向けて前進して行きたいものです。

編集後記

新年度を迎えてもう6月になりました。年ごとに時間の経つのが早くなるのは私だけでしょうか？本会も新しい企画を始め、伝統的な事業とミックスして、多様な顔を持つようになりました。新しい事業でこの会報の紙面もより一層賑やかせたいものです。さて会報第4号ができました。ホームページ同様可愛がって下さい。この会報が会員拡大や会の事業の発展に寄与できれば幸いです。ご覧の通り今回は会員の皆様の積極的な投稿がありました。これを契機に対社会的にも積極的に広報していきます。ご愛読下さい。（廣田記）

平成26年6月10日印刷
平成26年6月15日発行
特定非営利活動法人　とちのみ支援会会報　とちのみ
編集　NPO法人とちのみ支援会事務局
発行　NPO法人とちのみ支援会
発行責任者　廣田秀徳
所在地　（〒932-0051）
小矢部市今石動町2丁目13－13
電話　0766－67-3899
FAX　0766－61-3525
hyde.hirota@gmail.com